

熱血闘魂

ソ
ロ
ミ
ヲ
シ
メ
テ
シ
ム
コ
ト
ヲ
シ
ム



県内事例：トラベルヘルパー®

介護旅行で人生豊かに

東伊豆町観光協会トラベルヘルパー®に挑戦

東伊豆町観光協会「トラベルヘルパー東伊豆」代表

吉間厚子氏

トラベルヘルパー®は、介護技術を身に付けた旅や外出の支援の専門家を指す。高齢者らの旅や外出に同行し、移動中、観光地散策、宿泊先などの場面で旅行者をサポートしている。

こうしたトラベルヘルパー®の役割を前面に押し出し、高齢者や介助が必要な人たちにも安全で楽しい旅を提供しようと活動しているのが、2010年秋にスタートした東伊豆町観光協会のトラベルヘルパー東伊豆だ。

「あきらめないで！旅の夢をかなえましょう」が、トラベルヘルパー東伊豆の合い言葉。ただし、代表の吉間厚子さんは「高齢者にとって、家の玄関から外に出ることも旅だと思うんです」と強調する。買い物など日常の移動をサポートしていくことも視野に、活動に取り組んでいる。

トラベルヘルパー®の必要を感じたのは、介護現場で明らかになりつつあった矛盾がきっかけだった。介護保険法の施行後、法令改正ごとに介護サービスの規制が厳しくなり、法律と現場のニーズがかい離。東伊豆町では、担当者がこうした規制の隙間を埋める新しい分野の介護サービスを立ち上げようと補助事業を始めた。これを東伊豆町観光協会が受託したことで、トラベルヘルパー®を事業化することになった。

活動はトラベルヘルパー®の養成から開始。日本トラベルヘルパー協会の養成講座を受講し、1年目に2人が「トラベルヘルパー2級」を取得。2年目にも1人が合格し、現在は3人のトラベルヘルパー®が所属している。トラベルヘルパー®は、要介護者の体に触れて介助ができるホームヘルパー2級以上か、理学療法士、看護師のいずれかの資格を持っていることが前提。そうした知識の土台の上に観光やもてなしについて学んでいくことになる。

当初、トラベルヘルパー®と言うと、宿泊施設や観光施設のバリアフリー化を求める活動が中心と思われ、設備投資に慎重な関係者からは敬遠された。ただ「外出支援はバリアフリー化を望むだけでなく、トラベルヘルパー®の技術で高齢者らの旅行や外出を可能にすること」（吉間さん）と丁寧に説明するなど、周知活動にも力を入れた。

具体的な支援活動の最初の目標に掲げたのは入浴介助だ。温泉に代表される観光地としてニーズがあると見込んだほか、孫と一緒に家族風呂に憧れる高齢者も多いと踏んだからだ。これまでに入浴介助の技術を実地で学ぶ研修を行った。さらに、車いすの高齢者とともにバスや電車など地域の公共交通機関に乗ったり、地元観光イベントに実際に参加したりすることで課題の洗い出しに努めた。

県のニューツーリズム商品企画コンテストでは、トラベルヘルパー®と一緒にまち歩きツアーを提案して入賞。モニターツアーを行って課題の検証をすると、第2回も実施した。

高齢社会に突入し、誰にでも優しいまちづくりは急務だ。こうした流れを踏まえ、吉間さんは「私たちトラベルヘルパーとしての方向性は確かだと実感している」と語る。

吉間さんたちは、トラベルヘルパー®による介護付旅行の普及で、誰にとっても旅が安全で楽しいものになり、人生の思い出を充実させることがQOL（人生の質）の向上につながると信じて活動を続けている。

